

校内授業研の成果と課題

成果

- ・文章の組み立てを考える上で、付箋は視覚的に考えやすく効果的であった。
- ・町探検のまとめには、ペープサート等、様々な方法があるが、作文だと深くその状況や思いを伝えることができるため、1つの方法として有効だった。
- ・児童たちはとても意欲的に話し合いに参加していた。
- ・教科書の例ではメモがどのように並べられているのかを確認するため、Jam board を活用したが、児童が自分で付箋を動かして確認できたことでその後の活動に効果的であった。

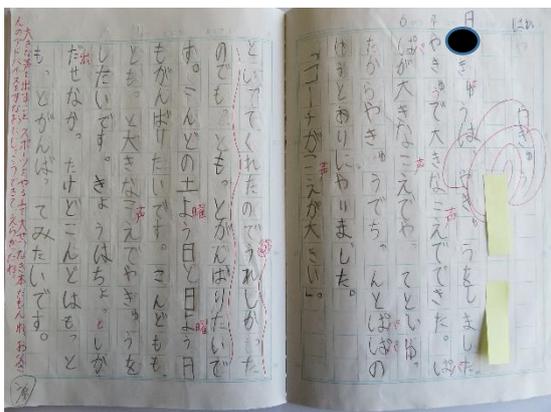
課題

- ・児童が用意していた付箋が多すぎた。例示の時点で使わないメモも混ぜておけば、取捨選択するという考えがもう少し出たのではないか。
- ・児童の中から自分たちの文章やその組み立ての課題に気づかせるような問題解決型の授業にすべきだった。
- ・学習問題の「すてき」という言葉が不明瞭で捉えづらかった。グループの中で、「自分たちが考える素敵は何か」を考えさせて、共通のイメージを持たせたほうがゴールに向かいやすかった。
- ・グループで話し合う際に、話し合ったり、修正したりするときのルールを示したほうがよかった。
- ・付箋を動かすことが目的になってしまった班があったので、何のために付箋を動かすのかの意図を明確にすべきだった。
- ・今後も何かの文章を書く折には、本時で学習した組み立てに立ち返らせて振り返ることが定着するために大切。

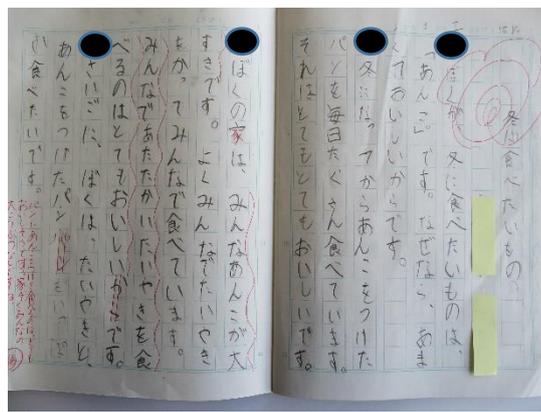
1年間の成果と課題

日記

- ・「はじめ」「中」「終わり」を意識して文章を書けるようになった。
- ・まず、次に、そして、などの順序を表す言葉が使えるようになった。
- ・会話文を書く時の改行の仕方や句点、読点の打ち方など作文紙の使い方が定着していない。



(1学期)段落を分けて書いていない。



(3学期)はじめ・中・終わりを意識し、4段落に分けて書いている。

ICT 端末活用の成果

- ・ICTを活用することで、低位の児童も取り組みやすく、主体的に学習できた。
- ・タブレット端末に写真や動画を残すことで、いつでも学習を振り返ることができた。
- ・協同的な学びに生かせるよう、ICTを活用することができなかった。

学年の取り組みで特に効果的だったものについて

- ・季節に合わせた本の紹介や読み聞かせをしたり、学年のブックトラックに学習に関連する本を置いたりし、読書の幅が広がった。
- ・物語文を指導する際に、必ず初発の感想を書くことを繰り返し取り組んできたことで、教師から例示しなくても、自分で考えて感想文を書くことができるようになった。
- ・聞き方の掲示物を使用したり、頷く、相槌を打つなど聞き手としての反応を繰り返し指導してきたことで、話を聞く時に言葉や態度で反応出来るようになった。

今年度の研究についての振り返り

- ・生活科で自分が経験したことと、国語の書く活動を結び付けたことで、書くことへの意欲が向上し、伝えたいという思いをもって文章を書くことができた。また、より具体的で厚みのある文章を書くことができた。生活科の学習としても、ただ経験して終わりになるのではなく、国語で文章にまとめることで、学びを整理することができた。
- ・ICTを、授業研の時にだけ重点的に活用してしまい、年間を通して計画的に活用させることができなかった。

